

1. 件名：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 東海再処理施設におけるガラス固化体の保管方式に係る検討状況に関する面談

2. 日時：令和元年11月19日(火)11時00分～12時00分

3. 場所：原子力規制庁 10階会議室

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 審査グループ 研究炉等審査部門

田中安全審査官、堀内安全審査官

原子力規制部 審査グループ 核燃料施設審査部門

山後安全審査専門職

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 再処理廃止措置技術開発センター

技術部 廃止措置技術課 マネージャー 他3名

5. 要旨

○原子力機構より、ガラス固化体の保管方式に係る検討状況について、資料に基づき説明があった。

○原子力規制庁より、以下の点を指摘した。

- ・資料中の「3. TVF ガラス固化体を輸送貯蔵兼用キャスクで保管/輸送する場合の対応について」の内容については、審査に係る事項のため、具体的な申請がなされていない現時点ではコメントすることはできない。
- ・いずれにしても、東海再処理施設は廃止措置段階にあることから、本件については廃止措置計画全体における位置付けを整理した上で、キャスク方式の採用の可否を含めて検討すること。

○原子力機構から、承知した旨返答があった。

6. その他

資料1：ガラス固化体の保管に関する法体系について